



農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.lg.jp/nodai/>

第 23 号 香川県立農業大学校

〒766-0004

仲多度郡琴平町榎井 34-3

TEL 0877-75-1141

FAX 0877-75-3989

E-mail : nodai@pref.kagawa.lg.jp

□専攻実習の取り組み □活躍する卒業生 □頑張る修了生 □校外講師の授業風景

□免許・資格所得に挑戦 □同窓会だより □農大ふれあい市

専攻実習の取り組み

卒業論文に取り組み中

野菜園芸コース 武田 裕

私は四月から校内で専攻実習を受けています。農業大学校では多くの野菜を栽培しているのですが、その管理作業を通して卒業論文の題材を探っていました。その中で、一年生の時から担当していたイチゴについて試験を行うことになりました。

試験は一株に定植する子苗の数が初期収量にどう影響するかを調査することにしました。五月末から先生の助言を受けながら、試験用のイチゴ苗を育苗しています(写真)。



また、定植する本圃の高設ベッドについても部材の更新や補強を行う改修作業を猛暑の中で行いました。今後は九月中旬に本圃に定

植し、順調に生育すれば十二月から収穫が始まります。データ収集から卒業論文作成までの時間は限られています。頑張っている納得のいくものにしてほしいと思っています。

ケイトウの調査順調です

花き園芸コース 蔭山 詞久

私達二年生は、校内で専攻実習を行っており、切り花や鉢花などの栽培管理について実習を通して学び、知識や技術を身につけています。午前中は切り花を収穫し、市場や直売に向けて出荷調整作業を行い、午後は自分の課題に沿った調査をしたり、一年生とともに実習をしています。

私は



お盆の仏花に欠かせないケイトウを取り上げ、株間及び摘心位置の違いが切り花品質等に及ぼす影響」をテーマに取り組んでいます。具体

的には、株間や摘心位置の異なるケイトウを栽培して切花長や花径など、品質に関係する部位を計測しています。

調査は順調に進んでいます。引き続き、先生方にアドバイスをいただきながら調査を行って調査データを取りまとめ、卒業論文の作成に向けて努力していきます。

多収穫化の試験に奮闘中

果樹園芸コース 山本 将義

果樹コースは、校内と農業試験場果樹研究所に分かれて専攻実習を行っており、この実習の中で卒業論文のテーマを各々が計画し、先生方から調査等の指導をいただきながら取り組んでいます。

私は「シャインマスカット(ブドウ)の一枝二房による多収穫化」の課題に取り組んでいます。現在、果実は順調に肥大し、待望の収穫が近づいてきました。今年は酷暑のため、果実肥大など諸々不安でいっぱいでしたが、ブドウ園の肥培管理に責任を持ち、頑張ってきました。また、台風等の気象災害を懸念し、「結



果枝の誘引固定も入念に行いました。さらに、電気柵も設置してありますが、鳥獣害も心配です。特に、ハクビシンによる被害が周辺で認められていて、早く無事に収穫期を迎えたいと日々願っています。栽培管理は元より、自然災害のような予測しにくいマイナス要因に農業経営の厳しさを実感しています。

ちなみに、写真は夏休み返上で実家の小豆島から琴平の下宿先に帰る前に、一番に果樹園に立ち寄り、ブドウの結果枝に二房(通常は一房)着房させた果実の肥大調査のようすです。

内野の芝生化、完成間近!

造園緑化コース 山内 遼
平成三〇年四月より開始した「芝生復活プロジェクト二〇一八」。校内グラウンドの土

の内野部分に七〇〇本の芝ポット苗を一m間隔で植え、はや四か月になろうとしています。

まず、なぜ復活かと言うと、数年前まで内野にも芝が張られていましたが、芝生の表面を平らに保つ管理が不十分で全て剥いでしまっていたためです。そのことを知り、どうしても芝生を復活させて綺麗なグラウンドを作りたい思いが高まりました。

私が入学した当初のグラウンドは「汚い」という印象しかなかったのを今でもはつきりと覚えています。そんなグラウンドを二年間かけて改新し、だれが見ても綺麗だと思えることを目標に、現在も研究に取り組んでいます。

実は芝生苗の定植標準密度は五〇cm間隔でしたが、予算の関係もあり一m間隔で植えたため、当初は卒業までの完成が危ういと思っていました。が、それでも幾つかの工夫を重ね、現在では芝生が予想を上回るスピードで広がり、写真のようにほぼ完成というところまで来ることができました。

た(写真)。なお、農大ふれあい市でグラウンドの芝生をリニューアルする予定ですので、新しい姿を是非ご覧ください。



三井牧場での取り組み

畜産コース 河村 凌

私は、今年四月からまんのう町の酪農家の三井牧場でお世話になっています。畜主の三井利広さんは、平成一六年一〇月に三豊市仁尾町からまんのう町大口に移転してきました。

仕事は、朝六〜八時と夕方四〜六時の乳搾りが主体で、昼間は牛のエサやり、トウモロコシ等の飼料作物栽培、堆肥の生産などを行っています。牛乳は直接飲用にするとのこと、特に牛の乳房の消毒など、毎日の衛生管理にも気を使っています。牛は子牛を産んで初めて乳を出すので、

その繁殖が酪農家の基本となつていきます。



実際の現場で何事にもチャレンジしている農家の姿勢を見て、大変勉強になっていきます。また、三井牧場は酪農教育ファームとして幼稚園や小・中学校の生徒、地域住民を受け入れて、地域交流牧場としてみんなから慕われています。今回の専攻実習の目標である卒論は、「牛の繁殖に関する発情鑑定(種付適期)」について取り組んでいきたいと思っています。

活躍する卒業生

岩田 彩加さん(三豊市)

岩田さんは、平成二七年三月に農業大学校を卒業して綾川町の農事組合法人である養豚の大和畜産に就職し、はや三年が過ぎました。岩田さんは高校時代から養豚に興味は

あり、農大でも専攻実習で豚へのトマトの給餌について取り組み、豚を生産している大和畜産への就職を決めました。



大和畜産は綾川町の西分にあるウインドレス豚舎です。香川県の特産となったオリブ豚も生産しています。岩田さんは繁殖豚が七〇〇頭ほどいる分娩舎で働いていて、ここでは肉豚を生産する目的で年に二回半のペースの分娩で子豚を生産しています。それには、日頃の繁殖豚や子豚の衛生管理が大切です。岩田さんは、将来大和畜産の経営を担って、香川県の養豚業を盛り上げてもらいたいと期待しています。

頑張る修了生

長谷 真里さん（さぬき市）
私は平成二八年四月から就

農実践研修生として一年間、果樹コースに在籍して果樹栽培の基礎や技術などを学びました。ブドウ栽培を始めた祖父、それを引き継いだ父、その後継の三代目として、脱サラして農業経営を始めるための準備ができました。

現在は、ニューピオーネやシャインマスカットを五五aの施設で栽培しています。祖父や父の代からの私たちのブドウのファンの方々に、主に贈答用として直接販売していますが、これからもその期待に応えられるように高品質のブドウを栽培していきたいと思っています。



これからも生まれ育ったさぬき市で、地産地消、耕作放棄地の活用、食育や新規雇用など、地域に貢献できる経営者を目指していきます。

校外講師の授業風景

英会話講師 窪田ティア先生

十人十色

農業大学校で英語を担当させていただいています。気が付くと、もう二十四年目になっています。最初の頃の学生のみなさんは、私のこどもよりも十歳以上年上の方ばかりでしたが、今はもうそんなことはありません。本当に月日の経つのは早いものです。



さて、学生のみなさんを見ていると、毎年、「今年の一年生は〇〇な感じ」というように、その年その年の傾向があるように感じさせられました。しかし、学生のみなさん一人一人を見たり、お話をしたりすると、言うまでもありませんが、誰一人として同じ人はいません。静かな人、いつも質問してくれる人、おとなしい人、お話をするのが好きな人、活発な人、いつもニコニコ笑顔の人、……。それらは無意識に表現されているものでしょう。それが、一人一人の、それぞれの個性ではないでしょうか。そんな皆さんに英語を教えさせていただく機会があり、本当にうれい

せんが、卒業後、英語をしゃべる機会が多いかどうかはわかりません。しかし、皆さんの親の世代、祖父母の世代よりも英語をしゃべるチャンスは明らかに多くなっています。そんなときのお役に立てればと願っています。

免許・資格取得に挑戦

農業機械利用技能者養成研修

農業大学校では、農業機械利用技能者の養成と農作業安全の啓発を目的とし、県運転免許センターの協力を得て昭和四〇年から農耕車限定の大

型特殊免許やけん引免許等の技能試験を実施しています。この研修は農業機械研修の一環として学生には将来の就職や農業法人等への就職に向けて、一般農業者にも免許が取得できることから人気が高い研修となっています。



農耕車限定の大型特殊免許は、五月と八月の二回が既に終了しました。が、三九名（うち学生二七名）が受講して見事全員合格することができました。残り二回の研修も全員合格を目指します。

造園技能検定

農業大学校では、日本農業技術検定や危険物取扱者など、希望者は様々な免許や資格試験に挑戦していますが、造園緑化コースでは講義の一環として国家資格である造園技能

士の資格取得に取り組んでいます。一年生は三級、二年生は二級取得を目指して粘り強く練習を繰り返して、全員合格を目指して頑張っています。不合格をおそれずに挑戦していきたく思います。



同窓会だより

J A 香川県 営農部園芸課

和泉 正浩さん（まんのう町）



私が普通高校から農業大学校へ進学したのは、当時が農業に興味を持ち出した頃で、「ハウスで綺麗な花を栽培してみたい！」との思いが強くて花きコースへ進みま

した。農大時代は同じコースの仲間との実習やふとした雑談など、いい思い出も多く、学生生活は楽しいものでした。また、土日はゴルフ場でキャディーのバイトをしていましたが、そこでの接客が就職後に役立ちました。

卒業後は当時の協栄農協に就職しましたが、農大で学んだ花き類でなく、水稲・野菜・畜産・茶の指導員となりました。「農大時代にもっとコース以外のことを学んでおけばよかった。」と思ったものです。現在は大規模ではありませんが、我が家で水稲、ニンニク、ブロッコリー、ミニトマト、チマサンチュを栽培し、J A の各種支援作業（育苗・フィールド・出荷調整支援）を活用しています。これは半分勉強、半分楽しみで、いい出来の農産物を見ると喜びは大きいものです。

学生の皆さんへは、私が学生時代に耳障りだった言葉を送りたいと思います。「もっと勉強しておけばよかったと思うときがくるよ。」と。今は実感しています。そして同級生

はもちろん、先輩・後輩との関係も大切にして農業大学校を大切な思い出にしてほしいと願います。

農大ふれあい市

本校の学生自治会が主催する恒例の「第二回農大ふれあい市」を次のとおり開催します。皆様お誘いあわせの上、ぜひお越しくください。

開催日時

十一月三日（土）

午前十時三〇分〜午後二時

内容（予定）

- 野菜、果物等の販売
- 苗物、鉢物、堆肥等販売
- 模擬店（焼そば、菓子など）
- ・オープンキャンパス

来年度、入学を希望される方や保護者の方で校内見学を希望される方は事前ご連絡の上、受付までお越しください。

お願い

駐車場は榎井小学校運動場も利用できますが、数に限りがございます。できる限り公共交通機関をご利用ください。